地質学雑誌　第115巻　第8号（通巻1367号）付録　平成21年8月15日発行（毎月1回15日発行）

# 日本地質学会 News

Vol.12 No.8 August 2009

# 第１回 惑星地球 フォトコンテスト2009

## 趣　旨

惑星地球年プログラムは，地球と人類の持続可能な未来のためには地球科学の知識と技術が欠かせないことを広く知り，それを積極的に活用するために，国際地質科学連合（IUGS）とユネスコを中心に，多くの賛同者･後援者によって推進されています．私たちの惑星地球の豊かな自然を再発見するために、惑星地球をテーマにした写真を広く公募し、優秀な作品を表彰するとともに、作品集やパネルの展示を通じ、地球科学に関する理解を深め，地球科学の進歩と普及を図り、学術の振興と社会の発展に寄与・貢献することを期待するものです。

## 部　門

- ■　Ａ部門：惑星地球の美しい風景で芸術的価値が高い作品
- ■　Ｂ部門：惑星地球の教育・学術的価値が高い作品
  （200 字以内の説明文を付けること）
- ■　高校生部門：　学校生徒が撮影した作品

いずれかの部門を選択して投稿してください．

**こんな作品を大募集！**

＊地層や火山など活きた地球の姿を表す優れた作品
＊環境・防災・資源・など IYPE のテーマに沿う優れた作品
＊ジオパーク（注１）に関係する優れた作品
＊鉄道と地球の姿を組み合わせた「ジオ鉄」（注２）の優れた作品

## 賞および賞金

| | | |
|---|---|---|
| IYPE 日本名誉会長賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 日本地質学会会長賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 審査委員長特別賞 | １点 | 賞金５万円 |
| 優秀賞各部門 | 各１点 | 賞金３万円 |
| 入選 | 数点 | 賞金１万円 |

## 応　募

詳しくはウェブサイトをご覧下さい
http://photo.geosociety.jp

**締め切り 2009 年 11 月 30 日（月）**
郵送応募は同日必着のこと

## 主　催

planetearth® Earth Sciences for Society
国際惑星地球年日本

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893 日本地質学会
日本地質学会

## 応募要項

■応募作品
（１）応募作品は、他の出版媒体等に未発表で、他のコンテスト等に応募していない作品に限ります（個人のホームページや、授業・講演等の資料、コピー機による少部数の印刷物等で用いたことのある写真は未発表のものとして差し支えありません。また、他のコンテスト等で落選が確定した作品についての応募は差し支えありません）。
（２）応募作品には 200 字以内で，作品の説明を付けることができます．

■ 応募方法
（１）応募作品は応募者が撮影したものでなくてはいけません。１部門につき２作品までご応募いただけます。
（２）プリント作品を郵送する場合は，２Ｌか同等以上のサイズとします。プリントを応募される場合は，作品の裏面には、応募票（様式１）をセロハンテープで貼付してください。プリント作品の返却を希望する場合は、返却先を明記した着払い用宅配便伝票と返信用の封筒を同封し、一点ごとに「返却希望」と朱書きしてください。ただし、破損、汚損、紛失等による損害の補償は致しません。
（３）画像データを応募する場合は，作品は 500 万画素以上で，ただし画像データの１作品あたりのファイルサイズ:5MB 以内（大きい画像は 5MB 以内に圧縮）であること．画像データのファイル形式は JPEG のみです。なお組写真でのご応募は受け付けておりません。色のレタッチ、明度・彩度の補正は問いませんが、明らかに加工・編集を加えた写真は選考の対象にはなりません。入賞者には受賞決定後、印刷物または展覧会等のため、より解像度の高い画像データ・ネガ・ポジフィルムの提出をお願いすることがあります。ネガ･ポジフィルムは後日返却いたします。データを記録した CD-R 等のメディアは返却いたしません。

■審査
主催者より任命された審査員により、厳正な審査を行います。審査結果についてのお問い合わせはお受けできません。審査はＩＹＰＥ日本および日本地質学会推薦の選考委員会が実施します。デジタルデータでご応募頂いた作品は，ＰＣモニター上で一次審査され，選抜作品のみ事務局にて２Ｌサイズにプリントして二次審査が実施されます．入賞者には日本地質学会事務局からその旨通知します。

■ 表彰
賞の発表は，2010 年２月末に応募者本人に連絡するとともに，ホームページ上にて公表します．また，2010 年３月 27・28 日に行われる IYPE 日本のイベントにて，表彰・展示を行います．

■注意事項
応募作品に人物が含まれる場合は、応募についてその人物の同意を得てください。被写体の肖像権、著作権への法的整理をふくむ応募作品の内容に関する一切の責任は応募者にあるものとします。ご提供いただきました個人情報は，日本地質学会プライバシーポリシーに従って扱われます。

■その他
応募作品の著作権は応募者に属します。入賞作品は、主催者のホームページ、メールマガジン、広告、宣伝媒体等に掲載する場合があります。

（注１）ジオパークは地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。ユネスコの支援により、世界各国で推進されています。
（注２）ジオ鉄とは、「鉄道」を利用して沿線に広がる「地形・地質的要素（ジオ）」を楽しむ旅（ジオツアー）を表わした言葉です。

# 日本地質学会*News*

## Vol.12 No.8 August 2009



The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６Ｆ
**編集委員長　坂口有人**
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp


planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

## *Contents*


案内 ……2
2009地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展/第26回東海地震防災セミナー2009のお知らせ/IGCP507第４回シンポジウム

公募 ……2
東京大学地震研究教員公募/東京大学大学院理学系研究科地殻化学実験施設教員公募/東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）教授公募/大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室教員公募（A）・（B）

各賞・助成 ……4
日産科学賞推薦者募集/平成22年度笹川科学研究助成≪学術研究部門≫募集/日本原子力研究開発機構平成22年度「先行基礎工学研究」募集

紹介 ……5
0.1ミリのタイムマシン　地球の過去と未来が化石から見えてくる　須藤　斎（辻野　匠）/地域地質学の方法論　小島学派，一つの回想　原　郁夫（岡田博有）

2008年度Island Arc編集委員会報告 ……7

支部コーナー ……9
中部支部：2009年年会（山梨）報告

表紙紹介 ……9
星砂と太陽の砂（写真：白尾元理　解説：北里　洋）

CALENDER ……10

訃報 ……10

一般社団法人 ……11
（一社）日本地質学会2009年度第1回執行理事会議事録/（一社）日本地質学会2009年度第２回執行理事会議事録

学会記事 ……12
日本地質学会2009年度第１回理事会議事録/日本地質学会2009年度第２回理事会議事録

**「日本地方地質誌　6.中国地方」特別割引販売のお知らせ** ……15

**地質雑：文献英文併記と図表・キャプションの英文化をお願いします** ……16


### Neogene/第四紀境界問題に関するコメント

第四紀・系の下限を2.588 Maとする国際層序委員会（ICS）の提案が，国際地質科学連合（IUGS）の理事会（６月29日）にて批准されました．かねてより議論されております新しい時代区分の国内対応に，日本地質学会は関係機関・団体と協議し，主導的役割を果たしていく所存であり，まず，日本地質学会の正式な対応を地層名委員会で検討し，理事会で決定する予定です．しかしながら，現時点では，日本地質学会のみならず多くの学術コミュニティーでは，正式な対応が決まっておりません．そこで，暫定的な措置として，地質学雑誌に掲載される論文に関しては，「はじめに」もしくは論文の末尾に，以下の記述を付け加えることを推奨します．

「なお，本論文における第四紀の下限は，2009年６月29日に行われた国際地質科学連合（IUGS）の理事会により認められた国際層序委員会（ICS）による第四紀の下限を2.588 Maとする提案に従って記述した．」

2009年８月　日本地質学会理事会

関連情報＜http://www.quaternary.stratigraphy.org.uk/＞

### 事務局営業カレンダー

お休み　＊印は振替休日です

8月/August

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23/30 | 24/31 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

夏期休業：8/13-14

9月/September

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7* | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | | | |

岡山大会：9/4-6（事務局不在）


印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

### 2009地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展

テーマ「浄化ビジネス最前線―人にやさしい環境づくりを目指して」
会期：2009年９月16日（水）～18日（金）
10：00－17：00
会場：東京ビッグサイト　東６ホール
入場料：1,000円
主催：（社）土壌環境センター/（社）日本産業機械工業会/日本産業洗浄協議会/フジサンケイ　ビジネスアイ
協賛：日本地質学会ほか

●特別講演（参加費無料）
会場：東京ビッグサイト会議棟6F（607会議室）
A）改正土壌汚染対策法のねらいと，今後の汚染対策の方向性
会期：９月16日（水）10：30～11：10
講師：田中聡志氏（環境省　水・大気環境局　土壌環境課長）
2010年４月１日までに施行される「改正土壌汚染対策法」の現行法との相違点を解説する．同時に，土壌制度小委員会や，法定パブリックコメントなどの経過を踏まえ，施行までのスケジュール予定や，施行細目の調整状況などを報告する．

B）地下水質のモニタリングスキームの見直し
会期：９月16日（水）13：00～14：00
講師：遠藤　光義氏（環境省　水・大気環境局　土壌環境課　地下水・地盤環境室　室長補佐）
新しい「地下水質モニタリング」の枠組みの運用が，今年４月に開始された．半年たった現時点での状況を解説するとともに，課題などを浮き彫りにする．また，改正された土壌汚染対策法がモニタリングにどのように影響するのかも合わせて説明する．

問い合わせ先
展示会事務局：（株）シー・エヌ・ティ
〒101-0048　東京都千代田区神田司町2-2-2
大森ビル４F
電話　03-5297-8855　FAX　03-5294-0909
e-mail：sgr.09@cnt-inc.co.jp

### 第26回東海地震防災セミナー 2009

日時：2009年11月11日（水）13：30－16：00
会場：静岡商工会議所会館５階ホール（JR静岡駅北口西側）
テーマ：東海地震に備える
座長：静岡大学理学部地球科学科　静岡大学防災総合センター　教授　里村　幹夫
１．インド洋大津波の災害実態
静岡大学防災総合センター　准教授
林　　能成
２．地震学の発展で実現した地震防災－緊急地震速報－
東京大学地震研究所　准教授
東田　進也

主　催：東海地震防災研究会
連絡先：〒422-8035静岡市駿河区宮竹1-9-24
土研究事務所　土　隆一
Tel.：054-238-3240，Fax：054-238-3241

### IGCP507第４回シンポジウム

**「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」**
韓国のソウル大学を中心に進めているIGCP507「白亜紀におけるアジアの古気候」の第４回シンポジウムと野外巡検が，熊本大学と熊本県下のフィールドで行われます．このシンポジウムでは，招待講演者によるテーマセッションとして「白亜紀のアジアにおける脊椎動物の進化」，一般セッション（口頭・ポスター発表）として，アジアにおける白亜系の地域地質や層序，動物・植物化石群集，古環境，古気候，テクトニクスなどが予定されています．また，プレ野外巡検は「天草地域に露出する白亜系御所浦層群と姫浦層群の古生物と堆積環境」，ポスト巡検は「御船町恐竜博物館の見学と恐竜化石産地」が企画されています．

日時：2009年12月１日（火）～３日（木），プレ野外巡検（御所浦・姫浦層群）
12月４日（金）～５日（土），シンポジウム
12月６日（日），ポスト野外巡検（御船層群）

会場：熊本大学大学院自然科学研究科「工学部100周年記念館」
主催：UNESCO ＆ IUGS，共催：熊本大学・御船町恐竜博物館
講演および野外巡検への参加申込と講演要旨の締切：2009年９月15日（火）
参加費：シンポジウム（ポスト巡検を含む）
一般参加者　18,000円，学生10,000円
プレ野外巡検　一般・学生参加者　43,000円（マイクロバスと海上タクシーなどによる交通費，前日からの宿泊代，食費，案内書代などを含む）

問合せ先：
〒860-8555　熊本県熊本市黒髪２-39-１
熊本大学大学院自然科学研究科
小松俊文
TEL：096-342-3425, FAX：096-342-3411
e-mail：IGCP507@sci.kumamoto-u.ac.jp,
komatsu@sci.kumamoto-u.ac.jp
詳しくは，http://igcp507.kopri.re.krに掲載されている案内を参考にして下さい．

## 公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

### 東京大学地震研究教員公募

１．公募人員：教授　１名
２．研究分野：地球化学分野
微量・同位体分析に基づく地球化学研究を推進するとともに，関連分野の研究者と協力しながら火山や地球内部の物質循環を対象とした研究を実施する研究者を募集する．また，このような研究活動を通じて，次世代の人材育成のための大学院教育にかかわることも期待される．
３．採用予定時期：2010年４月１日
４．応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
５．任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により，満55歳を超えることとなる教員の所属する組織（分野）の職に任期を定め，その職の任期は５年以内とする．再任については本研究所教授会の承認を得た場合は１回限り可（ただし，東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）．なお，詳細については，問い合せ先に照会のこと．
６．提出書類：
(1) 履歴書（市販用紙可）
(2) 業績リスト（査読の有無を区別すること．投稿中の論文も含む．）
(3) 主要論文の別刷り３編程度（コピー可）
(4) 研究業績の概要（2000字程度）
(5) 今後の研究計画（2000字程度）
(6) 応募者について参考意見をうかがえる方（２名）の氏名と連絡先とe-mail
７．応募締切：**2009年９月14日（月）午後４時　必着**
８．問い合せ先：東京大学地震研究所　地球ダイナミクス部門　本多　了
TEL：(03) 5841-5725
FAX：(03) 5802-3391
E-mail：honda@eri.u-tokyo.ac.jp

9．応募書類提出先：
〒113-0032　東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所庶務チーム（人事）宛
封書を用い，表に「地球化学 教授 応募書類在中」と朱書し，書留郵便で送付してください．

## 東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）教授公募

募集人員：教授１名
所属：学術資源研究公開センター（総合学術博物館）
職務内容：学術資源研究公開センターおよびその業務組織である総合学術博物館の運営および業務を中心となって担い，東北大学が所蔵する学術資料標本全般の保管・活用およびそれらに関する社会貢献活動を積極的に行うとともに，古生物学分野の研究教育に従事する．また，理学研究科地学専攻の自然史科学講座（協力講座）を担当し，学部・大学院の研究教育にあたる．
分野等：古生物学分野あるいは層位学分野．化石分類学，古生態学，古生物地理学など，標本・資料にもとづく研究に従事する研究者が望ましい．
担当科目：理学研究科・理学部，全学教育における地質学，古生物学，地史学，博物館学，環境科学関係の講義・演習・実習等
応募資格：博士の学位を有する者．55才以下の研究者が望ましい．
着任予定：2010年４月１日

提出書類：１．履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）/２．研究業績リスト（1）論文（査読の有無を記すこと）（2）著書（3）その他/３．主要論文・著書等５編の別刷り各１部（コピー可）/４．これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）/５．着任後の教育・研究に関する抱負（2000字程度）/６．博物館等の運営に関連した実績，着任後の抱負（2000字程度）/７．照会可能者２名の氏名と連絡先

応募締切：**2009年９月30日（水）必着**
書類送付先：
〒980-8578　仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）事務室　宛

問い合わせ先：東北大学学術資源研究公開センター（総合学術博物館）
教授選考委員会　委員長　吉田武義
東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学科
電話（兼Fax）022-795-7763
e-mail：tyoshida@mail.tains.tohoku.ac.jp
http://www.museum.tohoku.ac.jp/about/index.htm

## 東京大学大学院理学系研究科地殻化学実験施設教員公募

１．公募人員：教授　１名
２．公募分野：地球化学
３．応募資格：博士の学位を有すること，および，大学院理学系研究科化学専攻を主専攻として，学部・大学院教育に協力していただける方
４．着任時期：2010年４月１日以降で，なるべく早く着任
５．応募方法：自薦もしくは他薦（他薦の場合は，ご本人が了解されていること）
６．提出書類：
(a) 略歴書（学歴および職歴）
(b) これまでの研究・教育業績の概要（2000字程度）
(c) 研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説，著書などに分類）
(d) 主要な原著論文別刷５編（コピー可）
(e) 今後の研究計画（1000字程度）
(f) 今後の教育に対する抱負（800字程度）
(g) 応募者に関して所見を伺える方２名の，ご氏名および連絡先（住所，電話番号，電子メールアドレス）
(h) 他薦の場合には推薦書および上記事項(a)－(d) の概要がわかる書類
７．応募・推薦の締切：**2009年９月25日（金）（郵送の場合は必着）**
８．書類提出先：
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学　大学院理学系研究科　地殻化学実験施設　事務室
（封筒に「教員応募書類在中」と朱書し，郵便の場合には書留で郵送のこと）
９．問い合わせ先：
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学　大学院理学系研究科　地殻化学実験施設　長尾敬介
電話：03-5841-4621
メール：nagao@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

## 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室教員公募（A）

１．募集人員：教授　１名
２．資格：博士の学位を有し，大学院博士課程での研究指導ができる方
３．募集分野：環境地球学講座
地質学に基礎をおき，地質災害に関する物理的手法に基づいた研究を積極的に推進できる人．
特に，日本やアジア諸国の都市およびその周辺の地質災害に関する基礎的・応用的研究を行うことに意欲のある人．
教育面では，物理探査や地質災害に関連する科目や地球学概論，地球学演習などの研究領域に関係深い学部・大学院の専門科目の一部，地質調査法や地球学野外実習などの野外実習関連科目の一部，および一般地球学や建設地学，地球学実験などの全学共通科目の一部を担当できる人．
４．必要書類：(1) 履歴書　(2) 論文・著書のリストおよび最近５年間の学会発表リスト　(3) 論文の別刷りあるいはコピー　(4) 研究・教育・社会貢献に関するこれまでの経過と今後の抱負（3000字以内）　(5) 推薦状を添付してもよい　(6) 本人の紹介可能な人（２名まで）の氏名・所属・連絡先を添付してもよい
５．**締切：2009年10月16日（金）必着**
６．採用予定：2010年４月１日の予定
７．宛先：
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学大学院理学研究科・理学部
地球学教室 教室主任　益田　晴恵　宛
**〔注〕今回は同一講座の教授２名について同時に人事を行っています．本公募に応募する場合は，封筒の表に「応募書類A在中」の旨を表記し，「書留」で郵送してください．**
８．選考方法：当教室所定の手続きにより，地球学教室会議が選考し，理学研究科・理学部人事審査委員会で審査し，理学研究科・理学部教授会で決定します．選考結果は，2009年12月下旬に本人にのみ通知します．他の方々には応募書類を返却します．選考の過程で必要に応じて面接を行う場合があります．この場合，交通費等は応募者の負担となります．
９．問い合わせ：益田晴恵（学科主任）
大阪市立大学大学院理学研究科
生物地球系専攻
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
電話：06-6605-2591（direct in）
FAX：06-6605-2522（研究科事務室）
メール：harue@sci.osaka-cu.ac.jp

## 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室教員公募（B）

１．募集人員：教授　１名
２．資格：博士の学位を有し，大学院博士課程での研究指導ができる方
３．募集分野：環境地球学講座
地質学に基礎をおき，都市域およびその周辺の地質環境に関する研究を積極的に推進できる人．
特に，日本やアジア諸国の都市およびその周辺の地質環境に関する基礎的・応用的研究を行うことに意欲のある人．
教育面では，地質環境に関連する科目や地球学概論，地球学演習などの研究領域に関係深い学部・大学院の専門科目の一部，地質調査法や地球学野外実習などの野外実習関連科目の一部，および一般地球学や建設地学，地球学実験などの全学共通科目の一部を担当で

きる人.

4．必要書類：(1) 履歴書　(2) 論文・著書のリストおよび最近５年間の学会発表リスト　(3) 論文の別刷りあるいはコピー　(4) 研究・教育・社会貢献に関するこれまでの経過と今後の抱負（3000字以内）　(5) 推薦状を添付してもよい　(6) 本人の紹介可能な人（２名まで）の氏名・所属・連絡先を添付してもよい

5．**締切：2009年10月16日（金）必着**

6．採用予定：2010年４月１日の予定

7．宛先：
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学大学院理学研究科・理学部
地球学教室 教室主任 益田 晴恵 宛

〔注〕**今回は同一講座の教授２名について同時に人事を行っています．本公募に応募する場合は，封筒の表に「応募書類B在中」の旨を表記し，「書留」で郵送してください．**

8．選考方法：当教室所定の手続きにより，地球学教室会議が選考し，理学研究科・理学部人事審査委員会で審査し，理学研究科・理学部教授会で決定します．選考結果は，2009年12月下旬に本人にのみ通知します．他の方々には応募書類を返却します．選考の過程で必要に応じて面接を行う場合があります．この場合，交通費等は応募者の負担となります．

9．問い合わせ：益田晴恵（学科主任）
大阪市立大学大学院理学研究科
生物地球系専攻
〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
電話：06-6605-2591（direct in）
FAX：06-6605-2522（研究科事務室）
メール：harue@sci.osaka-cu.ac.jp

## 各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

### 日産科学賞推薦者募集

推薦基準　生命科学，理学・工学分野において，地球環境に係わる基礎研究で新しい研究分野・領域の開拓に繋がる学術の発展に大きな貢献をした，わが国の公的研究機関に所属する50歳以下の研究者

褒賞人員　原則として１名

募集方法　財団が依頼する学・協会の代表および推薦委員からの推薦によります．

学会推薦締切　**2009年９月１日（火）（財団への締切：９月15日）**

賞の内容　賞状および賞金500万円．

審査選考　2010年３月頃を予定．

問い合わせ先
日産科学振興財団
〒104-0061　東京都中央区銀座6-16-9
TEL（03）3543-5597
FAX（03）3543-5598
http://www.nissan-zaidan.or.jp/index.php

### 平成22年度笹川科学研究助成《学術研究部門》募集

趣　旨

21世紀は大きな価値基準の転換と，そのもとになる哲学の転換期であり，直面する諸課題を克服し今後の展望を拓いていくために，科学・技術は重要な鍵を握っています．科学・技術において重視されるべきものは，新たなものを生み出し活用する「新しい知の創造」に向けなければなりません．それには，これまで必ずしも十分な活躍の機会を与えられなかった多様な人材が能力を発揮できるようにするため，優れているが他からの研究助成が受け難い研究を掘り起こし，新規性，独創性または萌芽性をもち，発想や着想に意外性をもった研究に視点をあてます．もって，科学・技術研究の次代を担う人材育成と，その研究を奨励して科学・技術研究の振興を図ることを目的とします．

申請区分と研究対象領域

A〔一般科学研究〕人文・社会科学および自然科学（医学を除く）に関する研究

B〔海洋・船舶科学研究〕「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」の研究を特別に奨励するもので，その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）

募集対象者

A〔一般科学研究〕2010年４月１日現在，大学院生あるいは所属機関等で非常勤または任期付き雇用研究者として研究活動に従事する者であって，35歳以下の者

B〔海洋・船舶科学研究〕2010年４月１日現在，大学院生あるいは所属機関等で研究活動に従事する（常勤・非常勤は問わず）者であって，35歳以下の者

研究計画と助成額

研究計画は，申請者が主体となって行う研究で，単年度（2010年４月１日から2011年２月10日まで）内に研究計画が達成され，成果をとりまとめられるものとします．助成額は，前記期間内における研究の実施に直接必要な経費とし，１研究計画100万円を限度とします．

申請受付期間
**2009年10月１日～10月15日＜必着＞**

送付および問い合わせ先
財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成係
〒107-0052　東京都港区赤坂1-2-2
日本財団ビル５F
TEL　03-6229-5365　FAX　03-6229-5369
E-mail：ssrg-jss@silver.ocn.ne.jp

申請書式・申請条件等詳しくは，URL：http://www.jss.or.jp

### 日本原子力研究開発機構平成22年度「先行基礎工学研究」募集

概要：核燃料サイクルを技術的に確立するため，日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という.）が取り組む，研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究に関する研究協力課題を募集します．詳細は原子力機構のホームページをご覧ください．

募集研究協力課題件数：10件程度
（政府予算の成立を前提としており，場合によっては件数の変更があります.）

研究分野：高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発，高レベル放射性廃棄物処分研究開発，放射線安全研究分野等で原子力機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究

協力形態：共同研究及び研究生の受け入れ

研究予算：１研究協力課題あたり，年間最大で270万円以下

応募資格：研究実施の代表者は，国内の大学等に所属する教員または同等の研究経歴をもつ者（ただし，既に原子力機構の先行基礎工学研究協力制度に研究実施の代表者として応募し採用されている者を除く.）

研究開始：2010年４月１日（予定：ただし，契約締結後）

研究期間：１事業年度とします．ただし，毎年度に所要の評価を行い，研究期間の更新は，最大２回まで可能とします．

審査方法：書類審査及び口頭審査を行います．

応募締切：**2009年11月16日（月）必着**

問い合せ先：原子力機構
産学連携推進部　研究協力課
亀田，田沼，斉藤
電話　029-284-3419，3482，3483
FAX　029-282-6808
E-mail　sangaku.daigaku@jaea.go.jp
http://www.jaea.go.jp/

## 紹　介

### 0.1ミリのタイムマシン 地球の過去と未来が化石から見えてくる（くもんジュニアサイエンス）

須藤　斎

くもん出版，2008年11月１日発行，
135ページ，定価1470円（税込），
ISBN10:4774314365
ISBN13:978-4774314365

学問に携わるものにとって気になるものの一つは若手の育成である．ラテン語の諺Ars longa, vita brevis. とあるように，学業は永遠かもしれないが，人生は過ぎ去るものであり，若手が育たなければどんなすごい学問であっても衰退してしまう．私がここで推薦するのは若手向けの好著である．ただし，若手といっても若い研究者や大学生を対象にしたものではない．もっと若い人―子供たちが相手である．

本書は，珪藻化石の研究を通して地球の歴史を垣間見るという趣向の児童書である．珪藻の説明や著者の研究テーマである休眠胞子の研究を平易に書いている．クジラと珪藻の関係などは夢のある話で子供たちを魅きつけるだろう．学術的な話に加えて著者自身の研究生活や，北極調査航海での１ヶ月の船上生活，進路の迷いなど生の「研究者」の生活も書いてあり，研究者志望の若い人にも十分参考になる．本書の構成は次のとおり．

「はじめに」
第１章　ケイソウとはいったいなにもの．
第２章　お休みケイソウに名前をつける．
第３章　ついに完成した分類．
第４章　「地球の時間のものさし」を使う．
第５章　北極からのレポート．
第６章　北極についての新発見．
第７章　研究者たちとの１ヶ月．
「あとがき」

本書はトピックを小分けにし，関連をもたせながら配置しているので，珪藻や地質学，調査船あるいは若手研究者についての包括的なイメージをもつことができるように構成されている．しかも，ところどころに余談を交え，子供が飽きないように工夫がなされている．ここでは，スケッチと進路の話について簡単に感想を述べる．

まず，パラパラと本書をめくってビックリするのはページの左上隅にある珪藻の休眠胞子化石のスケッチである．本書にはいくつもスケッチが掲載されているが，研究をはじめた頃の休眠胞子のスケッチと研究がまとまった頃のスケッチを見ると出来の違いにびっくりする（私も身に覚えがある）．スケッチは最近の機器分析的科学では軽視されがちだが，スケッチをちゃんと描けるということは，そのものの特徴をよく理解しているということである．このハイテクの時代にローテクが有効というのは逆説的だが，高精度の電顕による画像データは精巧かもしれないがそれだけでは「わかる」ということには貢献しない．分類学や記載の学は当然すぎて有難みを忘れがちで，著者も分類をやって何の役に立つか迷ったことがあったという．その時に，先生は「分類は科学のパイオニアでありフロンティアなんだ」と返したという．そして著者は誰も手がつけられなかった休眠胞子の分類を完成させる．これは大変な成果だと私は思う．

著者の学生時代が第２章で語られている．最初，著者は大学の卒業研究でいわき市産の貝化石を研究していたという．あまり楽しくなく早く終わらせたいという気持ちが強かったと著者は回想する．その著者が研究者になるのだから先のことはわからない．その研究で珪藻との（正確には珪藻研究者との？）出会いが著者の人生を方向づけた．なんの変哲もない泥岩に含まれる珪藻を調べることによって，堆積した年代や古水深や古水温がわかる．それに魅せられて珪藻研究を志したという．本書では研究者としての悩みもところどころにちりばめられており，将来を不安に思う若手の参考になると感じた．著者は「偶然の積み重ねで今のわたしがある」という．おそらく偶然をうまく生かすこともその人の力量のうちなのだろう．また，偶然かもしれないけれど，そこには人と人とのつながりがあって，それが大切だと著者は結んでいる．

本書は産経児童出版文化賞（第56回，2009年）の大賞を受賞した．子供たちに地質学のおもしろさを伝え，記載の学の重要性を訴える好著である．

**（辻野　匠）**

### 地域地質学の方法論 小島学派，一つの回想

原　郁夫

丸源書店，2008年11月30日　第１刷発行，
234ページ，定価2,000円＋税，
ISBN978-4-9904456-0-4

現在の地球を中心とする地質学環境をこれからどうしたらよいのか，極めて重要な問題になっている．この点に関して，広島大学名誉教授・応用地質株式会社技術顧問（1998－2007）として活躍された原　郁夫（はら・いくお）氏の最近の新著書である「地域地質学の方法論　小島学派，一つの回想」を紹介したい．この新本は下記の「目次」からなるが,先ずこの著者の特性を明らかにしよう．

原氏は1932年に岐阜県落合村（現在の中津川市落合）でお生まれになり，小島丈児先生が構造岩石学関係の重要な教授をしていた広島大学理学部地学科を1966年に卒業した．この広島大学地学科で，原氏は大学院生を終えた後，助手や助教授，さらに教授として大活躍をされた．この研究の中で原　郁夫氏は特に構造岩石学，変成帯テクトニクス論，地すべり学を重視され，1995年には日本地質学会から第10回日本地質学会賞を受賞された．

次に本書を紹介する．

目　次

はじめに　v（写真１）
第１章　小島学派と都城学派　1（写真２）
第1節　小島丈児先生と地域地質学の方法　3（写真５）
１．はじめに　4，２．小島先生に出会う―構造岩石学の受容と展開　4，３．小島先生の三波川帯研究の視点　9，４．小島先生の地質基準　11，５．Orthogneiss　13，６．おわりに　15，引用文献　17.
第２節　小島丈児先生と大学紛争　19（写真６）
１．はじめに　20，２．大学紛争の中で　22，　３．「歩け歩け」から遠ざかって　26，４．おわりに　29，引用文献　34.
第３節　松本達郎先生の「日本地史学の課題」

を読む　35（写真２）
１．はじめに　36，２．松本先生の地史学の構想との関わり　36，３．研究者の姿勢に関わりこと　45（3.1　中心と周縁　45，3.2　研究の姿勢　47），４．おわりに　49，引用文献　50.
第４節　都城秋穂先生と私のプレート・テクトニクス受容と展開　52（写真７）
１．はじめに　53，２．都城先生に出会う　54，３．都城先生の変成帯地域地質学の視点　60，４．私のプレート・テクトニクス受容と展開　70（4.1　1970年代の三波川帯地域地質学　73，4.2　プレート収束帯のテクトニクスを考える三波川帯地域地質学　76），５．おわりに　79，引用文献　87.
第５節　坂野昇平さんとの対話　90，引用文献　98.（写真２）
第２章　地質調査の方法　99（写真２）
第１節　秀　敬先生・塩田次男さんとの三波川帯調査－領家帯・三波川帯接合の構造地質学－　101（写真４）
１．はじめに　102，２．中央構造線近傍の大洲時相の地質構造調査　106，３．運動像の解析　119，４．三波川帯－秩父帯における大洲時相のテクトニクス　127，５．大洲時相と市之川時階の間　132，６．おわりに　140，引用文献　142.
第２節　地質調査の方法と地質図の作製－三波川帯の地域地質学－　145（写真３，図６）
はじめに　146，２．一つの経験　148，３．いま一つの経験　150，４．どのように山を歩き，どのように地質学を作製するか　153，５．情報の再現性の検討　176，６．新たな課題による再調査　194，７．おわりに　207，引用文献　218.
第３節　日本の地質学の将来と学会の役割を考える－壮年は何を残すか－221（写真１）
1．はじめに　222，２．壮年のこと　222，3．壮年と若者の間　224，引用文献　229.
あとがきにかえて－山の風景，昨今－　231.
（写真１）

「はじめに」で，学問として地域地質学（構造地質学）を取り上げたことを明らかにしている．地質工学の問題を取り上げたことにも理解を求めている．

「第１章　小島学派と都城学派」では，「第１節　小島丈児先生と地域地質学の方法」,「第２節　小島丈児先生と大学紛争」,「第３節　松本達郎先生の「日本地史学の課題」を読む」,「第４節　都城秋穂先生と私のプレート・テクトニクス受容と展開」,「第５節　坂野昇平さんとの対話」からなる．このなかの第１節と第２節で，小島丈児先生を中心とした地質学への関わりを明らかにしている．とくに，小島先生が1960年に IGC に出席のためCopenhagenに行かれた様子が示されている．また，1976年に西ドイツのグルムシュタット工科大学で勉強された原氏の様子も紹介されている．そして，2006年６月１日に亡くなられた小島先生のことが，「小島丈児先生追悼文事」（小島丈児先生追悼文事刊行会，2009）の中で都城秋穂先生による「日本地質学史のなか小島丈児氏」と題した51ページの資料を上げている．

次の第３節では，九州大学教授であり，九州大学名誉教授であった故松本達郎先生の地史学を中心とする地域地質学の方法を紹介している．それは松本先生が1944年に九州大学教授になって間もなく書かれた著書「日本地史学の課題」（1949，平凡社）であった．この本で原　郁夫氏は極めて多くのことを学んだようである．

第４節では，都城先生から変成帯地域地質学やプレート・テクトニクスについて多くのことを学んだという．このなかには，都城秋穂（1965）：「変成石と変成帯」（岩波書店），やMiyashiro，A.（1973）：“Metamorphism and Metamorthic Belts”（George Allen & Unwin），などが示されていた．

第５節では，京都大学を原氏と同じ年に退官した坂野昇平先生の構造地質学への貢献と対話を取り上げている．このなかで坂野氏は政治に強く引かれて行動する人であった，と強調している．

「第２章　地質調査の方法」では,「第１節　秀　敬先生・塩田次男さんとの三波川帯調査領家帯・三波川帯接合の構造地質学」と「第２節　地質調査の方法と地質図の作製－三波川帯の地域地質学－」を中心としている．第１節では，地質調査関係者達の三波川帯地域地質学の様子が深く取り上げられている．この中で，四国西部の三波川帯や九州佐賀関地域の三波川帯に深い関心をもっていた．そして，九州北東部の有名な大野川層群の研究となった寺岡易司氏（元，地質調査所）にもふれている．第２節では大学外における地質調査の重要性を地質図の作製を例にあげながら解説している．そして地質工学とは何か極めて重要な考えを述べている．そして，最後の「第３節　日本の地質学の将来と学会の役割を考える－壮年は何を残すか－」では，地質学の将来のために教授を中心とする関係者の活躍を深く望んでいる．特に,「２．壮年のこと」のなかで原氏の生き方を論じ,「３．壮年と若者の間」で日本の構造地質学や構造岩石学のことなどを論じている．

本著の最後として,「あとがきにかえて－山の風景，昨今－」のなかで，著者は広島大学名誉教授としての歴史的な重要性を強調している．

以上，本書が示すことは，故小島丈児先生（広島大学名誉教授），故松本達郎先生（九州大学名誉教授），故都城秋穂先生（ニューヨーク州立大学名誉教授），故坂野昇平先生（京都大学名誉教授）などの地質学者のほか，原　郁夫名誉教授（広島大学名誉教授）を中心とする広島大学の関係を示された貴重な本である．本書で日本の地質学の進展の様子が極めてよく理解できるようになっているので，多くの方々に本書を強くお勧めしたい．

**（岡田博有）**


国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

**「箱根火山たんけんマップ**
**一今，生きている火山」**

A2版両面フルカラー印刷.
ハンディタイプで野外での観察に最適です.
教材としてもぜひご活用下さい.

小・中学生向け地質リーフレット新登場.
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

**会員頒価　300円**

Islands Arcは，年４回発行されます．最新号のVol. 18 Issue 2が2009年６月に発行されました．日本語要旨をニュース誌と学会ホームページ（http://www.geosociety.jp）にも掲載しています．全文はオンライン（http://www.blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

## 2008年度Island Arc編集委員会報告

日本地質学会Island Arc編集委員会

日本地質学会の公式英文誌であるIsland Arc（IAR）は，1992年の発刊から今年で18年目を迎えました．この間，国内外の多くの雑誌と競争的な環境にありながらも，IARは着実に成長してきました．今後も，IARの発展に御助力をお願いする次第です．ここでは出版社であるW-B社から送られてきた出版報告をもとに，IARの現状を地質学会の会員の皆様に御紹介します．

なお，IARの出版社であったBlackwell Publishingは合併によりWiley-Blackwell（以下，W-B社）となり，IARは第18巻第２号よりW-B社から出版されています．また，Blackwellジャーナルサイト Synergyに収録されていたIARのジャーナルプラットフォームも，2008年７月よりWiley InterScienceに移行されました．

### 第17巻に37編の論文を掲載

2008年発行の第17巻には37編（Pictorialの２編を含む）の論文が掲載され，全ページ数は594ページでした．2007年までの４年間の論文数は，2004年が35編（552ページ），2005年が49編（716ページ），2006年が44編（548ページ），2007年が47編（606ページ）です．W-B社との契約により，今後ページ数を増やすことになっており，2009年発行の第18巻は約680ページ，2010年発行の第19巻は約750ページ，2011年の第20巻は約825ページとなる予定です．第17巻第４号には「東および西アジアの地質構造　東テチスの古地理と古環境」という特集の前半（論文10編）が掲載されました．本号より，特集号の掲載が増え，一般論文の受理から掲載までの時間が長くなっている点が問題点として指摘されます．これに対しては，受理論文がオンラインで閲覧できるEarly Viewを活用し，電子出版の時期が早まるよう努力することで対応したいと思います．

第17巻掲載論文の第一著者の所属をみてみますと，日本が15編で最も多く，続いて韓国（6），アメリカ（4），中国（3），フィリピン（3），ロシア（2），エジプト（1），ドイツ（1），メキシコ（1），トルコ（1）となっています．また，2009年８月初めにおけるオンライン投稿化（2006年４月）後の投稿原稿205編の第一著者の所属をみてみますと，日本（99），中国（21），韓国（17），インド（15），イラン（11），アメリカ（7），フィリピン（6），ロシア（4），ドイツ（4），以下略，となっています．このように，投稿原稿および掲載論文の半数以上が，海外の研究者を第一著者とするものであり，これはIARが名実ともに国際的な学術誌であることを示しています．

### ダウンロード数が減少

2008年にはIARの講読状況は，オンライン講読と機関講読の合計が99機関となり，前年の97機関から２％増加しました．一方で会員講読は2007年の174名から2008年は172名とやや減少しました．コンソーシア図書館のオンライン購読は3,064から５％増え3,220機関になりました．Wiley InterScienceサイトからの論文のダウンロード数は，2007年は22,357件でしたが，2008年には17,990回と約20％減少しました．ダウンロード数の多寡は，後述のインパクトファクターのように，直接，IARの評価を左右するものではありません．しかし，ダウンロード数の減少はIARに掲載されている論文に対する世界の研究者の興味の指標と考えられますので，編集委員会としては，この減少を厳しく受け止め，今後，質の高い論文の発掘と掲載に努力したいと考えています．なお，参考までに，ダウンロード数の多い論文の上位10編を表１に示します．10編中７編が第17巻掲載論文ですが，Maruyama et al.（1997）論文のように，10年以上前の論文であるにもかかわらず，引用数の多い論文が含まれていることが注目されます．

**表１．2008年にWiley InterScienceサイトからからダウンロードされたIAR論文のうち，上位10編．**

| ダウンロード数 | ［巻-号，ページ］，著者（年） |
|---|---|
| 227件 | ［17-1，6］Camprubí et al.（2008） |
| 203件 | ［17-1，2］Nakano et al.（2008） |
| 195件 | ［17-2，186］Zhou et al.（2008） |
| 160件 | ［17-1，70］Stern et al.（2008） |
| 147件 | ［6-1，121］Maruyama et al.（1997） |
| 146件 | ［12-2，77］Yumul Jr. al.（2003） |
| 141件 | ［14-4，442］Bortolotti and Principi（2005） |
| 135件 | ［17-2，231］Zhang et al.（2008） |
| 131件 | ［17-2，208］Saffer et al.（2008） |
| 130件 | ［17-1，129］Kubota et al.（2008） |

### 2008年インパクトファクターは1.038

IARのインパクトファクター（IF）は，統計を開始した1999年の1.000から，2000年0.948，2001年0.732，2002年0.831，2003年0.641，2004年0.843と推移してきました．2005年には1.167へと大幅に上昇しましたが，2006年および2007年には，再び１を切り，それぞれ0.762，0.837でした．しかし，2008年のIFは再び１を超え，1.038となりました．また，新設の５年IFは1.214という値です．地球科学分野ではほとんどの雑誌が従来のIFの値よりも，５年IFの値が大きくなっています．これは，計数期間が２年間では不十分である，すなわち，まだ被引用のピークが過ぎていないことを示しています．なお，IARはGeosciences（Multidisciplinary）分野で143誌中80位であり，まだまだ雑誌の地位向上のために努力が必要です．

### Island Arc賞

2006年に創設された「Island Arc賞」の2008年の受賞論文は，Chang Whan Oh et al.

**2008年受賞式の様子**

（2004）Tectono-metamorphic evolution of the Okcheon Metamorphic Belt, South Korea: Tectonic implications in East Asia. The Island Arc, 13, 387-402に決定され，その授賞式が日本地質学会年会（秋田）において行われ，宮下会長から賞状と賞金が贈呈されました．2009年受賞論文は，Bortolotti and Principi（2005）Tethyan ophiolites and Pangea break-up. The Island Arc, 14, 442-470です．

### 今後のIARの展望

前年までと同様，IARでは積極的に特集を組む方向で編集を進めています．関心度の高い特集の掲載は，IARの国際的知名度やIFの増加に貢献できるものと考えられます．現在も５件の特集が進行中です．特集の企画がございましたら，ぜひ編集委員会までお知らせ下さい．

IAR編集委員会では，引き続きIARを優れた学術雑誌とすべく，掲載論文の質の向上に務めていきます．また，IFの向上のためには，特集号の掲載だけでなく，インパクトのある研究を行っている研究者に招待論文を依頼する等の方策を講じたいと思います．しかしながら，IARを優れた学術雑誌にするためには，何よりも会員の皆様方からの積極的な投稿が肝要です．今後も，IARの発展のために，会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします．

### 付　記

著作権の管理方針がCopyright Transfer Agreement（CTA）に変更本件は，2009年８月の事案ですが，重要な変更ですので，ここで紹介いたします．従来，IARに掲載された論文の著作権に関しては，出版社（Blackwell Publishing，W-B社）と著者の間でExclusive Licence Form（ELF）という著作権に関する契約書を交わしてきました．しかし，W-B社からの申し出により，2008年８月下旬より，Copyright Transfer Agreement（CTA）と呼ばれる契約書を交わすことになります．CTAでは，著作者がW-B社を著作権者として任命します．著作権侵害が生じた場合，出版社が著作者の権利を擁護するためには，著作権を自ら保有していることが前提となりますが，CTAではW-B社が著作権者となるため，著作権侵害の際に，効果的な対応が期待されます．なお，著作者は自己の原稿の再使用に関しては，ELFで保持しているのと同様の権利が維持されます．ELFとCTAの差異に関しては，表２に詳しく書かれていますので，御覧下さい．

**表２．ELFとCTAの比較．**

| Copyright Transfer Agreement (CTA) | Exclusive Licence Form (ELF) |
|---|---|
| **1. Submitted Version (before peer –review)　投稿された論文原稿（査読前版）** | |
| 出版後、著作者個人（または所属機関、雇用者）のリポジトリまたはアーカイブに自由にセルフアーカイブすることができます。イントラネットならびにインターネットを含みます。<br><br>*投稿された原稿 Submitted version に修正を加えたり、最終印刷版に差し替えたりすることはできません。*<br><br>掲載する際には当該誌にて出版された旨の説明文を添えてください。<br>『This is the pre-peer reviewed version of the following article: FULL CITE, which has been published in final form at [最終印刷版へリンク]』<br><br>著作者は個別配布（ただし無償配布）することができます。 | ELFでも左記同様の規定です。 |
| **2. Accepted Version (after peer review, but before typesetting)　受理された編集前の論文原稿（採択版＝査読済みで、編集前））** | |
| 受理された論文原稿、すなわち査読済み（編集前）の論文原稿の再使用（Re-use）には、Wiley-Blackwellと別途合意を取り交わすことが必要となります。<br><br>Wiley-Blackwellは一部の研究助成財団（funding agencies）より研究助成金等を受けた論文に関しては別途取決めを交わしております（政府機関、NIHなど）。<br><br>これら団体に関連したオンライン上での使用については、下記ウェブサイトにて詳細を確認できます。http://www.wiley.com/go/funderstatement<br><br>NIH助成金を受けている場合はCTA下段の「NIH Grantees」に印をつけてください。<br><br>著作者はアーカイブ、セルフアーカイブすることができません。 | ELFでは出版後12ヶ月の猶予期間（embargo period）を経た後、受理された論文原稿を掲載することが認められています。<br><br>しかし、この猶予期間については、著作者に完全に浸透されないケースが多く、この規定を誤って違反する場合がありました。<br><br>この規定を順守するよう著作者に徹底するのは現実的に困難であり、論文原稿が誤って広く無償公開されることにより、論文閲覧の購読をしている機関では購読停止するなどの支障が考えられます。 |
| **3. Final Published Version　出版された論文原稿（最終印刷版）** | |
| 出版された論文原稿（最終印刷版）について、Wiley-Blackwellは著作者に次の著作権使用をライセンスバックします。<br><br>**a.** Copies for colleagues.<br>個別配布が可能です（無償とすること）。<br>著作者の個人的権利として、最終印刷版を特定の要請に応じて無償配布することができますが、ウェブサイトへの掲載や特定もしくは不特定多数にメールの一斉送信など、を行うことはできません。<br><br>**b.** Re-use in other publications.<br>他出版物への再使用（Re-use）が可能です。<br>著作者自身が行った校正を含む最終印刷版、またはその中の一部を著作者自身が著する、あるいは編集する出版物（学術論文は除く）に再使用することができます。ただし、再使用する内容が新しい出版物全体の半分以下を構成するものとします。修正が加えられた場合は該当箇所を明確に示すことが必要です。<br><br>**c.** Teaching duties.<br>教育用途に使用可能です。<br>最終印刷版を著作者の所属または雇用者施設内での教育目的、研修用途（講義資料、電子リザーブ、研究発表、施設内研修、通信教育）に用いることができます。ただし、一般的教育目的外のセミナー等には使用できません（商業用セミナー、有料講演など）。<br><br>最終印刷版を教育目的の所属または雇用者施設内のウェブサイトへ掲載することは認められますが、当該ウェブサイトへのアクセスが合理的管理の下で運営されていることが前提となります（ユーザー名、パスワード管理など）。不特定多数がアクセスできるウェブサイトへの掲載はできません。<br><br>**d.** Oral presentations.<br>口頭発表での使用が可能です。 | ELFでも左記同様の規定ですが、CTAではより明確に示されています。 |
| **4. Article Abstracts, Figures, Tables, Data Sets, Artwork and Selected Text (up to 250 words).** | |
| **a.**　商業目的以外において、修正を加えない論文抄録（abstract）の再使用が可能です。なお、Wiley-Blackwellではオンライン使用にあたり、最終印刷版の掲載先へのリンク貼付を著作者に推奨しています。<br><br>**b.**　下記条件において表図、データセット、図画、250文字以内の文章の再使用が可能です。<br>(i)　引用元情報、出典を明確に記載すること。<br>(ii)　修正が加えられた場合は当該箇所を明確に表示すること。<br>(iii)　商業目的もしくは利益が発生しないこと。<br>(iv)　ここに示したものは出版倫理に反する二重使用を許可するものではありません。 | ELFでも左記同様の規定ですが、CTAではより明確に示されています。 |

☆中部支部

報告

## 2009年年会（山梨）報告

中部支部2009年年会が2009年６月13日（土），山梨大学教育人間科学部西キャンパスL号館C棟LC-27講義室にて開催された．また，翌６月14日（日）には八ヶ岳火山とその周辺の地質についての地質巡検が行われた．

**講演，シンポジウム「フォッサマグナ地域の地殻変動現象と中部地方の最新情報」**

午前中に南アルプスの世界遺産，ジオパークに関連した講演を中心に３件の一般講演と１件のポスター講演が行われた後，総会が開かれた．昼食時を利用して行われた県幹事会では，来年の主催県が決定され，来年の日本地質学会開催県への協力について話し合われた．午後には６件の講演からなるシンポジウムが行われ，途中，30分の休憩時には山梨大学水晶展示室の見学会も行われた．

当初，参加申し込みの出足が鈍く心配されたが，県内外から50名の参加者を得，地殻変動の激しい地域にあたる中部地方，山梨の地質の重要性の再認識と最新情報を交換する場として，活発な意見交換がなされた．

シンポジウム終了後，山梨大学生協グリルにて19名の参加により懇親会が行われた．

**地質巡検「八ヶ岳火山とその周辺の地質について」**（案内者：内山　高，輿水達司，角田謙朗）

梅雨の中，心配された天候にも恵まれ，予定通り巡検が行われた．定員20名に対して案内者を含めた参加者は30名となった（参加費は無料）．各自９台の自家用車に分乗し，前日のシンポジウムで議論にあがった構造線や火成岩類を含む３地点を見学した．Stop１では，八ヶ岳火山よりも古い鮮新世に噴出した飯盛山火山噴出物とフォッサマグナ地形を観察した．当日は，残念ながら1875年にナウマン博士がフォッサマグナ発見のきっかけを得た展望は叶わなかったが，展望台に設置されている記念碑と写真の助けを借り，本地域の地殻変動の様子をイメージすることができた．Stop２では，韮崎岩屑なだれ堆積物上位の湖沼堆積物とそれらに狭在する広域火山灰を観察した．また，移動中の車中からは所々で壮大な韮崎岩屑なだれ堆積物を観察することができた．最後のStop３では，山梨と長野の県境に位置する国界橋において糸魚川－静岡構造線に沿って教来石礫層の上に深成岩類（はんれい岩－閃緑岩複合岩体）がのし上がっている逆断層とそれらを覆う韮崎岩屑なだれ堆積物を観察した．構造線とその前後関係を観察することができる見応えのある露頭であり，現地での討論も絶えなかった．本巡検は移動に時間がかかることもあり観察地点は少なめであったが，露頭ごとに年代を含めた詳細な説明と十分な観察時間が確保され，複雑な本地域の発達史をスムーズに理解することのできる有意義な巡検であった．

**写真：巡検参加者集合写真（Stop３国界橋の露頭にて）．**

最後に，本年会事務局を代表しまして無事に年会を終了することができたことを参加者やご協力いただいた方々および山梨大学の皆様に心から御礼申し上げます．

**（小泉一人）**

表紙紹介

## 星砂と太陽の砂

写真：**白尾元理**　解説：**北里　洋**

珊瑚礁が発達する南西諸島の砂には，直径数mmのコンペイ糖のような形をした生物の遺骸が多数混じっている．これは大型の有孔虫類（真核単細胞生物）の殻で，星砂，太陽の砂と呼ばれている．表紙の写真は，沖縄県西表島北部の星砂の浜産のもので，海岸を歩いて探したが良いものが見つからず，売店で購入したものを撮影した（写真の横幅は22mm）．

写真で，細い棘を持ち，ネズミ色のものが星砂（Baculogypsina属），薄茶色の円盤から太い刺が出ているものが太陽の砂（Calcarina属）である．これらの有孔虫は細胞に珪藻を共生させており，貧栄養なサンゴ礁海域に適応している．殻は炭酸カルシウムから構成され，個体の成長速度は早い．生物量も多いことから，熱帯の島ではサンゴとともに炭酸カルシウムの主要な供給源となっている．

地球温暖化は標高が低い熱帯の島々にさまざまな影響を及ぼしている．例えば，海面上昇に伴い冠水被害が増加しているが，これらの有孔虫を利用して“砂”を生産し，島を守ろうとする試みがある．一方，大気中の二酸化炭素濃度の上昇は海洋の酸性化を招き，炭酸カルシウムを沈着する生物に少なからぬ影響を与えている．有孔虫類も例外ではない．星砂と太陽の砂は，観賞用のおみやげだけではなく，地球温暖化に伴う問題に関わっているのである．

# CALENDAR

2009.9～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

## 2009年

### 9月　September

**☆日本地質学会第116年学術大会**
9月4日（金）～6日（日）
会場：岡山理科大学ほか
http://geosociety.jp

**◯日本鉱物科学会2009年年会**
会場：北海道大学
9月8日（火）～10日（木）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams3/index.html

**◯第53回粘土科学討論会**
9月10日（木）～11日（金）
会場：岩手大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/cssj2/

**◯第3回国際地学オリンピック台湾大会（国際大会）**
9月14日（月）～22日（火）（予定）
場所：台湾
http://www.jeso.jp/

**◯第12回日本水環境学会シンポジウム**
9月14日（月）～15日（火）
会場：お茶の水女子大学
http://www.jswe.or.jp/

**◯2009年度日本地球化学会年会**
9月15日（火）～17日（木）
会場：広島大学理学部
共催：日本地質学会ほか
http://www.geochem.jp/index.html

### 10月　October

**◯日本火山学会2009年度秋季大会**
10月10日（土）～12日（月・祝）
場所：神奈川県立生命の星・地球博物館
http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/

**◯日本地下水学会2009年秋季講演会**
10月15日（木）～17日（土）
シンポジウム「北海道の地下水資源をどう活かしどう衛るか」
会場：札幌市かでる2・7
http://homepage3.nifty.com/jagh/

**◯日本地震学会2009年秋季大会**
日時：10月21日（水）～23日（金）
場所：京都大学吉田キャンパス
http://www.zisin.or.jp/meeting/2009/

**◯平成21年度日本応用地質学会研究発表会**
10月22日（木），23日（金）
（見学会：10月24日（土））
会場：山形テルサ
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

**◯平成21年度日本応用地質学会研究発表会**
10月22日（木）～23日（金）
場所：山形テルサ（山形市双葉町1-2-3）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jseg/

**◯日本地理学会2009年度秋季学術大会**
10月24日（土）～25日（日）（26日：巡検）
場所：琉球大学
http://www.ajg.or.jp/

### 11月　November

**◯平成21年自然史学会連合講演会**
「未来に残したい日本海域の自然史遺産」
11月7日（土），8日（日）
会場：石川県立自然史資料館コミュニケーションホール

**◯第26回東海地震防災セミナー2009のお知らせ**
11月11日（水）13：30－16：00
会場：静岡商工会議所会館5階ホール（JR静岡駅北口西側）
連絡先：土　隆一（Tel.:054-238-3240）

**◯第25回ゼオライト研究発表会**
11月25日（水）～11月26日（木）
会場：西日本総合展示場新館展示場（北九州市小倉）
http://www.jaz-online.org/

### 12月　December

**◯IGCP507第4回シンポジウム**
「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」
12月1日（火）～6日（日）
会場：熊本大学大学院自然科学研究科
http://igcp507.kopri.re.kr.

## 訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

**名誉会員**　加藤　磐雄（2008年12月27日）
松本　達郎（2月7日）
勘米良亀齢（4月6日）
加納　　博（6月6日）
松井　　健（6月21日）

**正会員**　品田芳二郎（3月18日）
井田　隆勝（6月6日）

## 一般社団法人日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

### （一社）日本地質学会2009年度第１回執行理事会議事録

期日：2009年６月13日（土）16：00～17：00
場所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　岩森　上砂　齋藤　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：井龍　石渡　倉本　小嶋　坂口

＊成立員数（9/17）に対し，出席者12名で，執行理事会は成立．
＊前回議事録の承認
**○報告事項**
１．総会で承認された理事３名，監事１名について登記申請を行った（免許税１万円）．
２．青少年のための科学の祭典2009（科学技術振興財団主催，2009/08）の後援を承諾
３．2009地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展（土壌環境センター，日本産業機械工業会，産業洗浄協議会，フジサンケイビジネスアイ他主催，9/16-18）の協賛を承諾．

**○審議事項**
１．執行理事の担当について
学術研究と公益事業の強化のために，学術研究部会と社会貢献部会を増員
運営財政部会（２名）：総務・会計
広報部会（２名）：広報
学術研究部会（３名）：行事・国際交流・研究交流
編集出版部会（３名）：地質学雑誌Island Arc企画出版
社会貢献部会（３名）教育・継続教育アウトリーチ

２．法人代議員，役員選挙実施に向けての準備
選挙細則と選挙管理委員会規則の最終案を決定→理事会にかける
選挙管理委員候補の選出→本人の了解を得て理事会承認
選挙日程案の検討→次回執行理事会で決定

３．公益法人認定申請の資料作成，初年度事業計画，作業スケジュールの検討について今までの経緯と公益法人化の現状などをニュース誌上で説明

４．その他
１）９月理事会の議題

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2009年７月11日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

### （一社）日本地質学会2009年度第２回執行理事会議事録

期日：2009年７月11日（土）17：00～18：30
場所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　上砂　倉本　小嶋　齋藤　坂口　藤林　向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，井龍　石渡　岩森　久田　矢島

＊成立員数（9/17）に対し，出席者11名で，執行理事会は成立．
＊前回議事録の承認
**○報告事項**
１．選挙細則および選挙管理委員会規則について理事会のメール審議に諮った．途中で一部修正案を出して承認を得た．
２．選挙管理委員として次の方々を選出し本人の了解を得た．その後，理事会のメール審議を経て承認された．
太田　亨（早稲田大）　川上俊介（アースアプレイザル）　川村喜一郎（深田研）
中島　礼（産総研）　松田達生（防災研究所）
上記委員による第１回目の選挙管理委員会を７月15日に開催予定．
３．「第７回ジャパンサイエンス＆エンジニアリングチャレンジへ（JSEC 2009）」の後援依頼があり承諾．

**○審議事項**
１．法人代議員，役員選挙実施について検討
・正・副会長のマニフェストの書式を決定
・意向調査　代議員選挙とは別途実施するが，用紙は投票用紙と一体化
・監事立候補の受付期間は代議員選挙の募集開始から役員選挙の立候補締切まで
・会員１名は，全国区については100名以下，地方区については所属支部の立候補者にのみ，その地方区の定数までの投票を可とする．
・代議員選挙において正・副会長への立候補意思を表明しなかった者は理事選挙で新たに正・副会長への立候補を認めない．
・正・副会長への立候補意思を表示した者が理事になれなかった場合は，追加の立候補受付や再度の意向調査を実施はせず，定款に沿って理事会で正・副会長を選出する．
・代議員候補者数が定員内であった場合は選挙を実施しないが，地方区の場合には順位をつけるための投票と正・副会長の意向調査の投票は実施する．
・７月15日に開かれる予定の選挙管理委員会での意見も受けて８月理事会で選挙実施覚書を決定
・選挙日程　来年３月中旬までに最終的な結果が出るように調整．選挙管理委員会で決定後，理事会で承認
・選挙の詳細については，９月の法人理事会で報告し，周知する．

２．公益法人認定申請について
・８月10日の執行理事会で議論し，９月定例理事会に報告する

３．法人における中期的事業計画の検討
・８月10日執行理事会で議論し，来年度事業計画策定に向ける

４．９月法人理事会について
選挙の詳細についての報告
公益法人化について
各賞選考規程と選考委員会
支部の法人移行
地質災害への対応

以上

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2009年７月11日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

### 一般社団法人日本地質学会の代議員および役員の選挙実施について

今年度末で任意団体を解散し，2010年度から全面的に法人として活動を行なう計画でおりますが，それに先立ち，法人として初めての，**代議員および役員の選挙を今秋10月から来年２月にかけて実施いたすことになりました．**詳細は選挙管理委員会により，来月号のNews誌およびWebサイトに告示されます．

会員各位におかれましては，ご留意のうえよろしくご協力くださいますようお願いいたします．

なお，選挙管理委員会の構成は次のとおりです．
委員長：松田達生，委　員：太田　亨・川上俊介・川村喜一郎・中島　礼

2009年８月10日
一般社団法人日本地質学会
執行理事会

# 学　会　記　事

## 2009年度　第１回理事会議事録

2009年７月11日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年６月13日（土）
13：00～15：40
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　岩森　上砂　齋藤　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：井龍　石渡　倉本　小嶋　坂口
＊成立員数（12/17）に対し，出席者12名，委任状５名，欠席者０名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

◯報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
報告事項
・天文学会，日本プラネタリウム協議会，日本公開天文台協会，天文教育普及研究会より，指定管理者制度の関する共同声明文が送付された．
・（財）尾瀬保護財団より，第13回尾瀬賞の募集案内（4/1-10/31）→News誌，HP掲載
・学術団体の知的財産のアンケートについては総務委員会が対応

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者48名（正８，正院割35，準５）
１名の入会者について事情を考慮し院生割引を適用することとした．
（正）豊福高志　北澤和男　豊田新　上手真基　山根博　安曽潤子　石坂岳士　福田惇一　（院割）和田卓也　加瀬善洋　平松圭　平下奈奈　下條将徳　市澤恵爾　岡本康亜　比嘉啓一郎　野村香織　三石真祐瞳　二宮淳　米谷奈々　尾嵜聡史　小山薫　佐藤大介　新谷友彦　中西俊貴　平井絢子　木村亨輝　清水祐也　長松雄　新井和乃　和田達也　井出祐介　大塚宏徳　須藤雄介　佐々木泰典　後藤隆嗣　柴田聡　石黒拓央　武部義宜　佐藤力樹　金沢晋太郎　野川裕　吉田明弘（準）西井彩　菅井一磨　中村祐樹　一宮大和　中野豪士
２）退会者　３名（正３）
（正）石川友美，尾崎裕司，小林今日子
３）逝去者　２名（名１，正１）
（名）加納　博（６月６日），（正）井田隆勝（６月６日）
４）５月末日会員数
賛助30，名誉72，正4150（うち院　134），準22，合計4274（前年同期比　－98）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・地球惑星連合環境災害対応委員会から委員に対し，各学会の環境災害に関する取り組みについてのアンケートがあり，小荒井委員，横山委員から返答．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテストについて検討中
・Webサイトの整備計画（MLシステムカスタマイズ作業）が完了した

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会について
年会全体の共催：日本化学会・岡山理科大オープンリサーチセンター
シンポジウムの共催：地学教育学会・情報地質学会・J-desk
講演終了後の拍手の奨励→学会全体の注意事項で流す
・2010年富山大会について

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・日蒙交流協定について
10月のモンゴル地質学会70周年総会での締結を先方が要望
→会長＋国際特任理事の2名を学会から派遣
・日韓交流について
１）10月下旬の韓国地質学会ではジオパークなどの英語セッションを設ける予定
２）役員の相互招待（隔年），予算について基本的に対等平等（基本的には自己費用原則）で相互交流を進展，学会登録料などの検討

地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）
原稿完成が予定より遅れて夏以降の見込み

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通り（6/9現在）
115-06月号：論説３　短報２　口絵１（50p.校正中）
115-07月号：総説６（特集号「最終間氷期の環境変動－日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して－」世話人：公文富士夫ほか）入稿準備中
・2009年度投稿論文　総数25編［論説11（和文11），総説３（和文３）短報８（和文８），ノート２（和文２）報告１（和文１）］口絵３（欧文１・和文２）投稿数昨年比　－37　査読中60編　受理済み17編（うち通常号６　特集号11）
・新編集規則（旧編集規約・投稿規定）の９月施行に向けて，会員に対し事前周知のため，ニュース誌６月号等で広報を開始した．
・インパクトファクター（IF）取得に向けて
トムソン社に条件が揃った時点で申請を行う．
・地質学雑誌の英文のHPと投稿規程などの英文化を図る，翻訳を業者に依頼する（費用は20万円程度），会員外投稿も認め，オープンジャーナル化も検討
企画部会報告（岩森）
・編集規約ならびに細則の英文化を検討

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長　竹内圭史・角替敏昭）
・IAR編集状況，および編集事務局の仕事について，竹内事務局長より書面で報告があった．

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・リーフレット刊行委員会関連
１）刊行委員会委員の選出について
２）企画出版手続きについて
企画書の書式，出版物の規格化，査読方法，などにつて，現在委員長等で検討中
３）青木ヶ原溶岩のリーフレットの企画提案
たんけんマップと国立公園の２種類出す予定

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
地学教育委員会（委員長-中井均）
連合の地学教育検討委員会委員については，阿部会員から渡邉正人会員に交代

５．各委員会等
支部長連絡会議（担当理事-高木）
・関東支部総会（６月６日）は，新支部長として伊藤谷生氏を選出．

JABEE委員会（委員長-天野）
・臨時総会開催（一般社団法人に移行後）6/30に橋辺事務局長　代理出席

ジオパーク支援委員会（委員長-天野）
・支援委員会でポスターを作成中．

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡

部）
・学術会議WSの紹介（藤本理事）
行政側からの説明やいくつかの学協会の対応，学術会議の調査研究などの紹介があった．現状では公益法人化に対して慎重な学協会が増えている．公益法人は必ずしも学協会を念頭に置いたものではなく，学術法人のような枠組みを学術会議としても検討．

法務委員会（担当理事・委員長　上砂）
・５月17日の総会後に臨時理事会を開催し，除名問題について非申立人と申立人に対し法務委員会から裁定書を提出した．非申立人からは受領書が届いたが申立人（１号・２号）からは受領書が届いていない

６．地質の日委員会（藤林委員）
５月10日に本部主催でイベント（鎌田浩毅会員講演会）を開催し，90名ほどの参加者があり盛会であった．

７．日本ジオパーク委員会（高木委員）
・６月19日：本年度の日本および世界ジオパークの申請の締切．
・７月10日：本年度第１回ジオパーク委員会

８．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）
・二次選抜をつくばにおいて２泊３日で行う．
・2012年日本開催についての状況
１）2009年は台湾，2010年はインドネシア，2011年はまだ未決定
台湾大会からは参加国数も増加の見込み．
２）国内開催の他の科学オリンピックでは2-3億円の寄付を集めているが，地学オリンピックでは厳しいことが予想される．日本地学オリンピック委員会としては前向きに検討しているが，まだ開催の意思は固まっていない．→　地質学会としては2012年の開催を前向きに支援．

９．日本学術会議（佃）
・第四紀再定義の件
始まりが2.58Maになる，第四紀は残るが，第三紀は消える．IUGSで今後決定予定　次回のIUGS総会　今年中に決定の見込み．

**○審議事項**
１．法人への移行についての諸問題の検討
２．第四紀再定義の国内対応方針について
学術会議，産総研，第四紀学会，連合等との共同
変更に関する背景や影響についての解説やシンポジウム，国内コンセンサス作り（地質基準）担当　佃副会長　齊藤理事
３．その他
１）９月評議員会議題
事業報告
地質学雑誌の会員外投稿の扱いについて
以上

## 2009年度　第２回理事会議事録

2009年７月21日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期日：2009年７月11日（土）13：00～17：00
場所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　上砂　倉本　小嶋　齋藤　坂口　藤林　向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：佃副会長，井龍　石渡　岩森　久田　矢島
＊成立員数（12/17）に対し，出席者11名，委任状６名，欠席者０名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

**○報　告**
１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
報告事項
・中越防災安全推進機構（長岡市）から震災アーカイブス収集に関するアンケート
・学術会議より「研究現場において研究を進める上で支障になっている事項」係るアンケートの結果報告，学術会議会長から総合科学技術会議有識者会合で説明予定．
・高知大学海洋コア総合研究センターから「地球掘削科学共同利用・共同研究拠点」として文科省から認定された報告（礼状）があった．
・東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の推薦依頼→News誌，HPに掲載
・沖縄研究奨励賞の推薦応募依頼→News誌，HPに掲載
・女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の推薦依頼→News誌，HPに掲載
・朝日賞の推薦依頼→News誌，HPに掲載
・国立国語研究所から，著作物の言語データベースKOTONOHAにサンプル文章として著作物（地質基準）の採録許諾について依頼があり承諾した．
・石油資源（株），日本海洋石油資源開発（株）から役員交代挨拶状
・無機マテリアル学会（会長　吉澤慎太郎），地盤工学会（会長　近藤徹），土木学会（会長　浅岡顕）役員交代挨拶
・JAMSTEC主催の一般講演会の共催依頼（9/6岡山）→承諾

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者45名（正３，正院割39，準３）
（正）大森聡一　赤嶺俊輔　桑谷　立，（院割）　最首花恵　植木忠正　鈴木孝明　加茂圭祐　鈴木俊之　小畑怜子　三澤文慶　生賀大之　光原奈美　杉山直也　河邑圭太　牧野美里　遠藤孝義　大鹿淳也　山田　友　徳増由美子　吉野恒平　松本拓也　坂部達哉　高倉清香　遠藤晴美　植松　敏畑中彩　甲藤寛之　丸山美智子　垣内一秀　菅原　雄　大橋義也　岡田吉弘　石川友夏子　小安浩理　田村壮礼　永田知研　南條貴志　Kabir Md Fazle　坂　耕多，（準）大友和夫　西口達也　泉谷直希
２）退会者　９名（正９）
（正）松尾泰博，八島隆一，鈴木芳行，長谷川裕樹，野入久幸，岩本はるか，青柳大介，及川里英，横山忠正
３）逝去者　１名（名１）
（名）松井　健（６月21日逝去）
４）６月末日会員数
賛助30，名誉75，正4179（うち院　170），準26，合計4310（前年同期比　－84）

会計関係（担当理事-向山）
・中部支部から地域の児童生徒及び保護者対象の観察と採取中心の巡検企画に対する補助金の申請．申請額５万円（経費合計13万円－参加費５万＋支部予算３万）を審議し承認した．
・岡山大会のポスターと市民講演会ポスターの原画作成をしていただいた，（株）林原の雨宮氏に対し謝礼（２万円＋懇親会招待）を支払うこととした．
・2009年度支部補助金の配分予定（会員数比例）
北海道74,000円，東北76,800円，関東174,800円，中部110,400円，近畿110,400円，四国71,200円，西日本99,200円
法人化後，現在の支部の資産をどのようにするかを至急会計委員会で検討する．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテストについて
IYPEの関係団体を通じて周知
・広報誌ジオルジュの発行について，独自に出版するか雑誌とタイアップするかの検討
小学館のBE-PALと折衝　先方は地質の記事の掲載には前向きで継続協議とした
・広報関係の様々な媒体の関係についての整理（ジオフラッシュ，ニュース誌，ホームページ，ジオルジュ，フォトコンテスト）を了承した
・ニコン広報誌からの記事依頼（会長対応）については，　ジオパークのことなどをプロのライターが書いて掲載する方向であることが報告された．

2．学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）

1）岡山大会について（資料参照　2-7）

・順調に準備は進んでいる．

・JAMSTEC（巽会員）から一般向け講演会の企画申請があり，地質学会に共催の依頼．

「ちきゅう」の掘削成果と今後のプロジェクトを市民に紹介．

・地質情報展会場におけるミニ講演会の開催について　9月5日午前

・ジオパークワークショップ　9月5日午後

ジオパークの申請についての実務的な問題を扱う．

・会場までの貸し切りバスの運行について，準備委員会よりの提案

初日9月4日の朝のみ，付属高校の通学ラッシュとぶつかるので貸し切りバスを出すことで対応したい．岡山駅発2台程度，貸し切り費用1台12,600円

通常のバス運賃は岡山駅から190円なので利用者からの路線バス額に相当する費用徴収を検討．

法界院駅からは，理科大学のバスを出す予定（JRで岡山駅から法界院駅まで140円）

2）連合からプログラム委員2名の推薦依頼があり，七山太会員（継続）他1名を推薦予定．

3．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長-久田，副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）

・今月の編集状況は以下の通り（7月10日現在）

115-07月号：総説6（特集号「最終間氷期の環境変動－日本列島陸域と周辺海域の統合を目指して－」世話人：公文富士夫ほか）（校正中）

115-08月号：

・2009年度投稿論文　総数31編［論説15（和文15），総説3（和文3）短報10（和文9　英文1），ノート2（和文2）報告1（和文1）］口絵4（英文1・和文3）　投稿数昨年比　－46　査読中63編　受理済み25編（うち通常号8　特集号17）

・特集号「プレート沈み込み帯と地震（世話人：廣野哲朗ほか）」の査読が完了した（6/3付け）．近日掲載予定．

・新編集規則（現編集規約・投稿規定）の9月施行に向けて，会員に対し事前周知のため，ニュース誌6月号等で広報中．

・岡山大会のシンポなどの特集号化を呼びかける事とした

企画部会報告（岩森）

・トムソン社への英文レター草稿作成・添削中．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

・IAR編集状況について

編集は概ね順調　2008年のIFが前年の0.837から1.038に上昇．

企画出版委員会（担当理事-藤林）

・リーフレット出版規約案作成→審議事項

4．各委員会等

JABEE委員会（委員長-天野）

・臨時総会開催

4月1日一般社団法人設立

地球科学部門から資源素材学会会長の山冨二郎氏（東京大学）が理事になった．

理事を選出した母体は特別会費として年間20万円支払うこととなる．

ジオパーク支援委員会（委員長-天野）

・岡山大会でワークショップ（9月5日）を開催，日本ジオパークネットワークと共催予定．GGN決定予定3地域を含む各地域に講演依頼，とくにこれから認定を目指す地域へのガイダンスを中心に据える．同時に開催のプレス発表を予定（8月22日のGGN決定と同時に）．

・ポスター原稿完了

・ジオパークに関する行事予定

新潟大学：糸魚川ジオパーク展（9月1日―11月29日），信州大学：上高地キックオフミーティング（8月）

・支援委員会の認知度をあげることを検討．

日本ジオパーク委員会（高木委員）

・申請のあった8地域について現地調査などを経て9月24日の委員会で決定．申請地域は以下の通り．

GGN加盟申請希望地域：山陰海岸・室戸・秩父

JGN認定希望地域：白滝黒曜石・恐竜渓谷ふくい勝山・阿蘇・天草御所浦・隠岐

・昨年GGNに申請した3地域は8月22日に中国の会議で決定見込

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）

・7/11　午前中委員会の結果概要を報告．選挙実施に向けて細目の検討，その他（法人執行理事会において審議）

**○審議事項**

1．リーフレット出版規約案の策定

・国立公園リーフレットシリーズおよびたんけんマップに関する　二つの規約を作成し，意見の集約を行う．

・リーフレットシリーズ企画出版委員会で専門家の関与や査読などの体制を整備し，提案された企画の採否の判断をし，それに基づき最終の企画提案書や印刷の承認は理事会がおこなう．

・9月に第1回目の企画出版委員会を開催予定

2．その他

1）秋吉台博物館への楯に記載の表彰文の文案決定

2）9月評議員会議題

各種報告事項

任意団体の解散について

その他

以上

日本地質学会会員の皆様へ　特別割引販売のお知らせ

# 日本地質学会編集 **日本地方地質誌** ＜全８巻，函入上製本＞

『日本地方地質誌』刊行委員会　刊行委員長：加藤碩一　副刊行委員長：高橋正樹

## 第４回配本　**６．中国地方**　560 頁，口絵８頁（9 月上旬刊行）

編集委員長：西村祐二郎　　副編集委員長：君波和雄
編集委員：飯泉滋・今岡照喜・岡田昭明・岡村行信・金折裕司・
木村純一・沢田順弘・鈴木茂之・山内靖喜・渡辺　洵

**定価 26,250 円（税込）を会員特別割引価格 22,500 円（税・送料込）**

日本地質学会会員の皆様に，日本地方地質誌を特別割引価格で販売をいたします．お申し込みは，下記用紙にて直接朝倉書店までお願いいたします．

日本地質学会「日本地方地質誌」刊行委員会

事務手続き代行：株式会社 朝倉書店

［問い合せ先］　〒162-8707 東京都新宿区新小川町 6-29
株式会社 朝倉書店　編集部：千葉　Tel.03-3260-1967
［お申し込み］　本ページをコピーのうえ，ファクシミリまたは郵送にて上記までお送り下さい．
［お支払方法］　書籍到着後，同封の振替用紙にてご送金下さい．

注意：会員特別割引は，一般書店・大学生協ではご利用できません．

---

## 会　員　特　価　申　込　み　書

**Fax No.03-3268-1376**　　朝倉書店編集部　千葉 行

**日本地方地質誌　６．中国地方　　会員特価 22,500 円（定価 26,250 円）　　冊**

**日本地方地質誌　３．関東地方　　会員特価 24,000 円（定価 27,300 円）　　冊**

**日本地方地質誌　４．中部地方　　会員特価 22,500 円（定価 26,250 円）　　冊**

**日本地方地質誌　５．近畿地方　　会員特価 20,500 円（定価 23,100 円）　　冊**

[第５回配本]　　８．九州・沖縄地方　（2010 年春刊行予定）

以下続刊：続刊も刊行次第順次ご案内いたします．１．北海道地方　２．東北地方　７．四国地方

お名前：

ご送付先：〒　　-

ご所属：

tel.　　fax.

備考：公費等の場合は，請求先・必要書類をお知らせ下さい．

## 地質学雑誌編集委員会からのお知らせ

これまでもニュース誌等でお知らせして参りました通り，日本地質学会の法人化に伴い，学会諸規則の整備が行われ，その中の一つとして，従来の編集規約，投稿規定などの編集に関わる規則を一本化，内容も一部改訂し，新しい編集規則を作成いたしました．

従来からの大きな変更点は，引用文献リストや図表およびキャプションの英文化です．これは，インパクトファクターの附帯化，国際的な相互引用化をめざすためにも必要不可欠なものです．地質学雑誌の更なる充実・地位向上のため会員の皆様のご協力をお願いいたします．

具体的には，2009年９月１日以降，新規に投稿される投稿原稿全てに新規則が適用されます．また，第115巻９号（2009年９月号）以降の掲載論文に関しても適用となりますので，既にご投稿中の著者にも随時修正をお願いする次第です．新しい編集規則は，学会ホームページまたは地質学雑誌巻末をご参照ください．

2009年６月
地質学雑誌編集委員会

# 文献英文併記と図表・キャプションの英文化をお願いします

### ～編集に関わる規則の一本化および一部改訂にあたって～

### １．図表類およびキャプションの英文化

**＜編集規則 G. 5 -7）より＞**

口絵・図・表・図版中，およびこれらに付帯する説明文（キャプション）は英語とし，活字で印刷されるものは別の原稿用紙に書く．図中の地名などの固有名詞には，必要に応じて英語を付す．日本語の説明文を付加してもよい．

### ２．引用文献の英文併記

引用文献は，編集規則G. 4の表示例にそって作成していただき，英語以外の文献については，下記のようにお願いいたします．

**１）日本語文献の場合**：著者名，雑誌・著書・出版社名のみ日本語・英語併記とし，残りの項目は従来通り（論文の表題は日本語のみ）といたします．

**２）英語以外の外国語文献の場合**：英語以外の文献の著者名，雑誌・著書・出版社名は，オリジナル言語・英語併記とし，訳した部分については，以下のような注をつける．

*English translation from the original written in［ORIGINAL 言語］

**３）英訳が不明確な出版物名や出版社名などの場合**：上記２）同様に「訳」であることを明記すること，および書かれている情報できちんと元論文にたどり着けるよう，また，なるべく表現が統一されるように編集委員会でチェックをすることで対応いたします．

**＜編集規則 G. 4より＞**

例）文　献

加藤武夫（Kato, T.），1920，黒鉱鉱床に就て．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**27**, 301-309.

加藤武夫・杉　健一（Kato, T. and Sugi, K.），1927，日本西南部外帯の推し被せ構造（Deckenstruktur）（予報）．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**34**, 249-252.

活断層研究会編（The Research Group for Active Faults, ed.），1991，新編日本の活断層－分布図と資料－［*Active Faults in Japan, New Edition - distribution map and the related materials-*］*．東京大学出版会（Univ. Tokyo Press），363p.

小池　清（Koike, K.），1957，南関東の構造発達史．地球科学（*Earth Sci.*），**34**, 1-16.

Mitchum, Jr., R.M., 1977, Seismic stratigraphy and global changes of sea level, part 11: Glossary of terms used in seismic stratigraphy. *In* Payton, C.E., ed., Seismic Stratigraphy-application to hydrocarbon exploitation, Mem. Amer. Assoc. Petrol. Geol., **26**, 205-212.

小川琢治（Ogawa, T.），1944，日本群島［*The Japanese Archipelago*］*．弘文堂（Koubundo Press），372p.

Oishi, S., 1940, The Mesozoic floras of *Japan. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Sec. 4,* **5**, 123-480.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938a，新生界対比に於ける軟体動物化石の価値．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 302-315.

大塚彌之助（Otuka, Y.），1938b，南部フォッサ・マグナ地質構造上の一特性．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**45**, 528-529.

Reading, H.G., ed., 1986, *Sedimentary Environments and Facies, 2nd*. Blackwell Sci. Publ., Oxford, 615p.

Schuchert, C. and Longwell, C.B., 1932, Paleozoic deformations of the Hudson Valley region, New York. *Amer. Jour. Sci.,* **23**, 305-326.

竹内　誠・河合政岐・野田　篤・杉本憲彦・横田秀晴・小嶋智・大野研也・丹羽正和・大場穂高（Takeuchi, M., Kawai, M., Noda, A., Sugimoto, N., Yokota, H., Kojima, S., Ohno, K., Niwa, M. and Ohba, H.），2004，飛騨外縁帯白馬岳地域のペルム系白馬岳層の層序および蛇紋岩との関係．地質雑（*Jour. Geol. Soc. Japan*），**110**, 715-730.

*English translation from the original written in Japanese

# デジタルクリノメーター GeoClino

## 走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

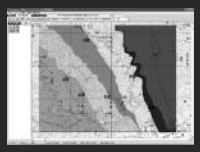
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



**さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!**

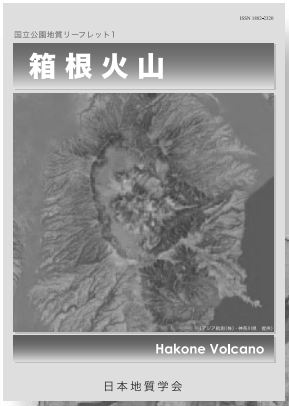
・**GeoClino-G**（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

**ジーエスアイ株式会社**
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp


# 国立公園地質リーフレット1. 箱根火山 好評発売中!!



B２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．

紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

購入希望の場合は，氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上，メールもしくはFAXで学会事務局までお申し込み下さい．会社名等での請求書が必要な方はその旨明記して下さい．
e-mail：main@geosociety.jp　FAX 03-5823-1156

※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています．

**会員頒価 1,000円/部**
（20部以上の場合は割引あり）

# 日本地質学会　第116年学術大会

## 開催期間：2009年9月4日(金)～6日(日)

### 地質情報展2009おかやま ―ワクワク・発見・瀬戸の大地―

日程：9月5日（土）～6日（日）10：00～17：00（6日のみ16：00まで）(入場無料)
会場：岡山市デジタルミュージアム　4階　（岡山市北区駅元町15-1）

### 市民講演会「大地から考える地球環境 ―地質と生物・農業の深い関係―」

日時：9月5日（土）13：30～16：30（入場無料・申込制）
会場：さん太ホール（岡山市北区柳町2-1-1）

### 小さなEarth Scientistのつどい　～第7回 小・中・高校生徒「地学研究」発表会～

日時：9月6日（日）9：00～15：30
場所：日本地質学会年会ポスター会場（岡山理科大学）

お問い合わせ　日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F
TEL:03-5823-1150　URL:http://www.geosociety.jp

共催　日本地球化学会・岡山理科大学オープンリサーチセンター
後援　岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山理科大学

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007－2009

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp